

?と!が生まれる 自然環境

子どもの自然に対する感性をはぐくむには、自然環境作りだけでなく、保育者が自然の変化やすてきさに気づき、子どもたちに伝えられる力をもつことが大切です。

監修=大澤 力(東京家政大学教授)

自然を取り込む園庭作り vol.5

自然をとらえる目をもつ保育者に

執筆=内野彰裕(東京都・東京ゆりかご幼稚園園長)

園庭の自然環境を豊かにすることで、子どもたちのあそびに変化が見られ、自然に対する興味・関心が深まってきたことを感じます。しかし、そのような姿は、環境を整えるだけでは、ここまで見られなかったと思います。

当園には、自然好きな保育者、自然に親しんで育った保育者が多いのですが、自分がいろいろ体験して知っていることと、それを保育に生かすこととは、また別の次元の話です。

ネイチャーゲーム指導員資格・自然体験推進指導員資格の取得、自然物製作の研修、自然教育についてのワークショップなどを積み重ねることで、「自然をとらえ、伝える」スキルが身についた保育者は、そこで得た知識を生かすのはもちろん、自分のプライベートでの自然体験をも保

育へと生かすことができるようになっていきます。

「休み中に園の周りを散歩していて、製作に生かせそうな木の実がいっぱい落ちていたところを見つけた!」、「屋久島に行って、樹の力をあらためて感じてきた。子どもたちにももっと樹のパワーを感じてほしい!」、「そろそろ散歩途中のあの場所に、花が咲くころだね」といったように、保育者が自然を楽しみ、子どもとその喜びを共有し始めると、子どもも楽しんで自然を見つけ始めます。それを見た保育者の心が満たされると、「もっと子どもと自然を楽しみたい!」という好循環ができていきます。

もともと持っているものに加え、研修やプライベートでの自然散策などで、保育者の自然への感受性を、どんどん高めていってほしいと思います。

研修で行われたネイチャーゲーム。「夜行性です」「ネズミなどを捕まえて食べます」など、自分の動物に関する知識を使って、相手に何の動物かを当ててもらおう。



森林科学園の先生を招いて、自然マップ作り。



自然物を使って製作をする研修に、真剣な表情で取り組む。



コルクと自然物を使った保育者の作品。

※このページでは、「いつでも自然とふれあえる園庭」を目指して、保護者と子どもと保育者で園庭改造に乗り出した東京ゆりかご幼稚園の実践を、1年間で紹介します。来月は「園外の自然環境を活用する」です。